

橈骨遠位端骨折術後の治療成績からみる Hand20 の有用性についての検討

1. 研究の対象

当院で橈骨遠位端骨折に対して掌側ロックングプレート固定術を施行された方を対象とする。

2. 研究目的・方法

当院にて橈骨遠位端骨折と診断され掌側ロックングプレート固定術をされた患者を対象とし、カルテよりリハビリ情報を後向きに確認する。本研究の目的は Hand20 と橈骨遠位端骨折後の握力、関節可動域との関係について調べ、どの程度の握力や可動域があれば日常生活を不便なく遅れるのかを調べることである。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：年齢，Hand20，握力，関節可動域 など

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

京都中部総合医療センター 患者相談係

研究責任者：

京都中部総合医療センター リハビリテーション科 恩村 直人

-----以上